

ピンチの後にチャンスあり！？ スポーツの試合などで 勝ち あるいは 負けが続くこともありますが、長く続くことは希です。たしかに、マイナスの次はプラスだと 落ち込んだ気持ちを切り替えることは重要です。しかし、特別の努力をしなければ、「喉元過ぎれば・・・」と言われるように、また同じような失敗を繰り返すことになります。表題の言葉には、他にも大切な考え方を含んでいると思われます。

ところで、「立場が変われば見える景色が違う」と言うような言葉を聞いたことはありませんか？ 会社で専務や副社長の時には大して気にならなかった経営上の問題が、社長（代表）となったら結構大変で解決に苦労された話は多いです。周りから見ていると、理屈では簡単であったり、数字など合理性から当然だと思えることが実際やってみると上手くいかない。時間軸やライバル・地域・社会の変化・成衰まで考えると、自信があった今までの思考や対応はあまり役に立たない。一から勉強の仕直しを始めてみたりもする。また、社内に本当の理解者はほとんどいないと気づく。当然、不安・弱音や愚痴は社員に見せる訳にはいかない。トップは孤独であると実感する。そして、尊敬できる先代は益々偉大に感じられ、あるいは、欠点が見え大したことないと思っていた先代は、自分が解らないところで苦労していたと気づく。その後、経験を積み努力により経営者としての能力を磨く。バージョンアップする。

有名な童話の 探し求めた幸福の青い鳥は実は家の中にいた という物語も同様である。これを経営的にみると次のようになる。業績を急速に上げたい、あるいは回復させたいと考えた若手経営者が、教を請うた先輩経営者の勧める様々な勉強会やセミナーに参加し、さらに高額な教材等で勉強し、または、有名と称されるコンサルタントの指導も受けてみる。だが、様々な新しい手法や制度、システムを導入しても、支出した費用の割に効果が上がらなかったり、逆に下がったりもする。また、社内もその都度混乱する。中には、勘違いや詐欺に近いものも経験する。そうした、経験を積むうちに本物と二セ物の違いが分かるようになる。高いコストを掛けなくても業績改善できる方法も発見出来るようになる。さらに、自社について良く見ると、強みや価値が多く存在している事が浮かび上がる。今まで、それらを高めたり伸ばしたりすること無く、他から持ってくることしか考えていなかった。優秀な社員がいないのでは無く、素質のある社員に夢や希望を持たせることがなく単なる作業員として使っていたと気づく。そこから地に足がついた本当の改善が始まる。以上のような話となる。

大切なことは、探し求め努力することがないと見えてこないと言うこと。同じ石ころを見ても、ただの石か宝石（価値あるもの）の区別が出来ないと話にならない。

表題の言葉に戻るが、努力すること無く 悪いことの次は良いこと だと考えるのは、賭け事のように進歩がない。同じピンチを繰り返す。また、本当にチャンスの種（ヒント）が有っても、上記の話のように見えるスキルが無ければ チャンスをつかむことができない。「幸運の女神の後ろ髪は短い」と言う言葉があるように、チャンスが見えたときにすぐ行動し無ければつかむことは出来ない。行動出来るためには準備（努力）が必要。ピンチを真剣に努力で克服した者にしかチャンスはつかめないものです。